

様式第3号

## 会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		令和7年度 第1回 生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会 (環境審議会部会)	
事務局(担当課)		市民環境部 環境政策課	
開 催 日 時		令和7年7月18日(金) 14:00~16:10	
開 催 場 所		川西市役所 4階 庁議室	
出 席 者	委 員	武田委員長、足立委員、上田委員、牛尾委員、下芝委員、信田委員、藤本委員	
	そ の 他	人見市民環境部副部長(農政担当課長事務取扱)、窪田文化・観光・スポーツ課主査、木田生涯学習課長、上田川西公民館長、大島美化推進課長、横田都市政策課主査、阪本公園緑地課長、三石教育保育課長	
	事 務 局	岡本市民環境部長、寺田市民環境部副部長(環境政策・生涯学習・公民館担当)、大嶋課長補佐、大田	
傍聴の可否		可	傍 聴 者 数 0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第		1. 委員長 あいさつ 2. 委員 紹介 3. 議事 (1)生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査(令和6年度)について (2)出在家町(川西北小学校横)キセラ川西市街地水路水生生物群	

	<p>保存のための啓発について</p> <p>4. その他</p> <p>(1)自然活動団体用パンフレットスタンドの設置について</p> <p>(2)本県におけるクビアカツヤカミキリ確認状況について</p> <p>(3)市南部物流センター建設における伊丹市環境アセスメントについて</p> <p>5. 市民環境部長 あいさつ</p>
会 議 結 果	別紙 審議経過のとおり

## 審 議 経 過

発信者	発 言 内 容
事務局	<p data-bbox="347 488 603 521">以下のとおり説明</p> <ul data-bbox="347 577 730 902" style="list-style-type: none"><li data-bbox="347 577 651 611">・ 開催挨拶（事務局）</li><li data-bbox="347 678 635 712">・ 会議公開について</li><li data-bbox="347 779 730 813">・ マイク使用方法について</li><li data-bbox="347 880 603 913">・ 議事録について</li></ul> <p data-bbox="395 969 491 1003">〈内容〉</p> <p data-bbox="347 1059 1481 1193">議事録につきましては、事務局にて後日要約し、委員長ご承認の上、委員のお名前は伏せた形で川西市のホームページへ公開させていただきます。</p> <p data-bbox="379 1249 1361 1283">委員の皆様におかれましては、ご理解のほどよろしくお願いいたします。</p> <ul data-bbox="347 1350 571 1384" style="list-style-type: none"><li data-bbox="347 1350 571 1384">・ 傍聴について</li></ul> <p data-bbox="395 1440 491 1473">〈内容〉</p> <p data-bbox="347 1541 1481 1675">また、本会議は傍聴が可能な会議でございますが、本日の傍聴人はおられません。</p> <ul data-bbox="347 1731 667 1765" style="list-style-type: none"><li data-bbox="347 1731 667 1765">・ 会議の成立について</li></ul> <p data-bbox="395 1821 491 1854">〈内容〉</p> <p data-bbox="379 1921 1481 1955">本日の委員の出席についてですが、委員会につきましては、川西市環境審議</p>

委員長	<p>会規則第4条第6項の規定により、委員の過半数の出席が必要とされております。本日の出席は、定数7名に対し、7名で成立となっております。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・配布資料の確認</li><li>・「次第1. 委員長 あいさつ」</li></ul> <p>〈内容〉</p> <p>本日は公私にわたりお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。昨今猛暑です。今年は去年にもまして暑く、梅雨明けも早くて気候がかなり変わってきている気がします。また、雨の降り方も異常で、集中豪雨が、この先まだ8月も続くのではないかと思います。こういう中で、生物に対してかなり影響が出てくるかと思いますが、それを把握するのが難しいです。また、外国からもいろいろな生物が入ってきます。今までいなかった南方系の生物も入ってきますが、これらをどうやって調査したらいいか、重要種を保全していくというのが重要な課題になってきます。本日の会議につきまして、円滑に進めていきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"><li>・「次第2. 委員 紹介」(資料「令和7年度 第1回川西市環境審議会部会(生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会) 委員名簿」)</li><li>・事務局、施策担当課紹介</li></ul> <p>〈会議内容〉</p>

	<p>それでは、「次第 3. 議事」に移ります。本日の議事事項は 2 件、「生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査（令和 6 年度）について」と「出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保存のための啓発について」でございます。</p> <p>ここからの議事進行は、委員長にお願いしたいと思います。議事等において、意見のある委員は挙手いただきお名前を述べられてから発言していただきますようお願いします。</p> <p>それでは委員長よろしくお願ひいたします。</p>
委員長	<p>それでは、議事に入ります。「生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査（令和 6 年度）について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、「生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査（令和 6 年度）について」ご説明いたします。資料 1 「生物多様性ふるさと川西戦略 評価指標」をご覧ください。</p> <p>こちらは「生物多様性ふるさと川西戦略の進行管理計画」に基づいて評価する指標についてまとめたものです。</p> <p>左からNo.、基本戦略、評価指標、担当課、目標値、計画の前期を取りまとめた最終年度である R 3 年度実績、前回報告の R 5 年度実績、今回の報告として R 6 年度実績、一番右端に(前回(R7.1.14)委員からの意見等)の順に記載してい</p>

ます。それでは6年度の内容について説明します。No.1 からNo.4「児童・生徒を対象とした環境教育の実施」では、対象者全員に実施することができております。

次に、No.5「教職員や市民を対象とした研修の実施」では、研修を受けた年間の教職員数（人）は24名となっております。取り組み方としては、市内3年・4年・5年担当全教員が5年程度で1回は参加できるように工夫しながら進めており、学校ごとに毎年最低1名は参加するようにしております。

次に、No.6「環境に関する公民館講座を受けた人数」では、令和6年度は5館で6講座を開催し、111名の参加がありました。今後も関係所管課と協力して環境学習の充実に努めてまいります。

次に、No.7「1年間の各HPへのアクセス数」では、令和6年度の数値が令和5年度に比べて約500件減少しております。これは、令和5年度は生物多様性ふるさと川西戦略改訂時の意見募集などにより高かったことによるものと考えております。総数では減っておりますが、内容を見ますと特定外来生物に関するページは閲覧数が増えている状況にあります。

次にNo.9「指標「景観に関心のある市民の割合」（市民実感調査）」では令和5年度の82.6%から令和6年度は76.9%に低下していますが、依然として、景観への関心が高い市民が多いといえます。

次に、No.11「指定・登録文化財（天然記念物）の件数」は、令和6年度に新たに兵庫県立一庫公園モリアオガエル生息地を新規登録しています。

次に、2ページNo.13「1年間に捕獲した有害鳥獣及び外来動物の数」では、アライグマ、ヌートリア、イノシシ、シカの4種駆除数を示しています。令和6年度捕獲数が令和5年度の213頭から286頭に増加しておりますが、主な理由としては、アライグマ捕獲数が令和5年度の89頭から令和6年度は180頭に増加したことによるものです。

次に、No.15「1年間に支援したボランティア数」として146名と記載しておりますが、前回の委員会でもお話ししましたが、令和6年度より市の補助金の枠組みを変えており、補助金を活用した4団体の会員の人数を記載しております。また、前回の委員会にて委員長から「林野庁が「森林山村多機能推進支援金」を出しているが、その補助はむしろ市とか県の助成を受けている方が支給しやすくなっている。その辺も考えてもらえたら市の方も他でどれだけ支給されているのか把握しておいた方がいいと思う。」というご意見がありました。市の回答としましてはR6年度指標欄の右側に記載していますとおり「市以外の補助金について、市では交付の実態を把握していないが、団体から補助金の相談を受けた際には、「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」の説明を行っている。」とのことです。

次に、資料2「生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査」をご覧ください。左からNo、基本戦略、施策名称、施策内容、担当部、担当課、自己評価、令和6年度の実施状況、成果と課題、今後の方向性、そして参考(前回(R7.1.14)委員からの意見等)の順に記載しております。資料上部に記載しておりますが、自己評価の評価方法については、A「目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。」、B「目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。」、C「実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。」、D「実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。」となっております。

それでは、内容についてです。NO.1から2ページNO.5につきましては、児童・生徒を対象とした環境教育の実施に関するものですが、評価としてはA「目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する」となっております。園所内の自然環境を生かした取組や小学校3年生から5年生までを対象とした自然学習、環境教育、中学校2年生を対象とした「トライやる・ウィーク」について記載しています。

次にNO.6とNO.7は、(2)教職員や市民を対象とした研修の実施に関するものですが、評価としてはA「目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する」となっております。教職員、市民を対象



とした研修、講座について記載しています。

次に、3 ページ、NO.8 から NO.12 までは、(1)「広報や市HP による情報発信」に関するものですが、評価としてはA「目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する」となっております。自然活動団体や企業の自然に関する活動を市HP や広報誌に掲載したことや、市観光協会と協力し、市の自然や歴史、観光地を紹介するHP の更新、川西市産の野菜・果物「川西そだち」をのぼりなどでPR したことについて記載しています。

次に、4 ページ、NO.13、14 は(2)「本市によるモデル整備や景観計画による情報発信」に関するものです。評価としてはA「目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する」となっております。キセラ川西プラザや消防本部の屋上に設置した太陽光発電システムについてモニターで発電状況を表示し、再生可能エネルギーの普及促進のため啓発を行ったことや、SNS での川西市の見所の紹介等の市民や事業者の活動をインターネットで発信することにより、参画と協働を推進する仕組みづくりを行ったことについて記載しています。

次に、NO.15 は、(1)「市民生活での生物多様性保全の活動の支援」に関するものです。評価としてはA「目標に向かって事業を実施することができ

た。次年度以降も継続的に実施する」となっております。特定外来生物のクビアカツヤカミキリやナガエツルノゲイトウなどの情報を速やかに市内部で情報共有するとともにHP、メールなどを活用し、市民、自然活動団体等に情報を発信したことについて記載しています。

次に、5ページ、NO.16からNO.18までは、(2)「本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施」に関するものです。評価としてはA「目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する」となっております。県立一庫公園モリアオガエル生息地について、川西市登録文化遺産（天然記念物）に登録したことや、地元水利組合が実施する農業用施設の補修や改修工事について支援を行ったことについて記載しています。

6ページのNO.19からNO.21までは、(3)「本市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施」に関するものです。評価としてはA「目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する」となっております。農作物の被害などの防止を目的にイノシシやシカ、アライグマ、ヌートリアの捕獲及び処分を行ったことについて記載しています。前回の委員会にて委員から、「森林を保全している市内の市民活動団体の活動をサポート、推進できるような形で予算をお願いしたい。」というご意見がありました。市の回答としましては自己評価欄の右側に記載していますとおり「令和6

年度から補助の制度を変えていて、防護柵の設置など、森林の保全に活用可能な支援制度「川西市森林整備等活動交付金」を新設し、令和6年度から運用を開始した。令和6年度は4団体が活用され、計80万円の支援を実施した。」とのことです。

また、委員から「森林環境譲与税が各自治体で使用されているので、そういう財源を市内の植生保全にぜひ活かしていただきたい。」というご意見がありました。

市の回答としましては「森林環境譲与税交付金を令和6年新設の「川西市森林整備等活動交付金」の財源に充てて活用している。」とのことです。

次に、7ページNO.22から8ページNO.25までは、(1)「市民、団体、企業などとの連携の構築」に関するものです。評価としてはA「目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する」となっております。里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として、R6年に川西市黒川里山センターの南北棟の耐震改修工事を実施したことや、新たな支援制度により黒川地区の里山を含めた森林の整備を行う市内の活動団体に補助金を交付することで、活動支援を実施したこと、HPへの活動紹介等の掲示を行うことにより住民・事業者等による景観形成の取組みへの支援を行い、保全活動へのサポー

トへ繋げるよう情報発信を行ったことについて記載しています。

また、事業者との連携では、環境月間の展示を令和6年6月に実施し、環境フェスタを令和6年10月に開催しました。その中で国崎クリーンセンター啓発施設ゆめほたるの活動内容を紹介するなど、団体、事業者と連携・協力を維持することができたことについても記載しています。

次に、NO.26、27は、(2)「兵庫県や市民団体との既存事業の継続」に関するものです。評価としてはA「目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する」となっております。NPOなどが実施する河川美化活動の支援として、ごみの収集を10回実施したことについて記載しています。

最後に、9ページ、その他に関することとして、前回の委員会にて委員から、「川西市環境フェスタにおいて、キセラの水路でもともとどのような生物が生息していて、どのような環境で今どのように変化してきたのか、どのような生物がいるのかというのを大きく取り上げるような内容で、川西市の展示で出展できないか。」というご意見がありました。市の回答としましては「前回の委員会で「環境フェスタ自体は、基本的には市民活動団体の発表の場、実際の取組みの場と位置付けているので、そこで、市がやっていくべきなのかというところが悩みどころである」と回答していたが、今回、川西市環境フェスタ

	<p>出展予定団体と調整し、団体に水路の資料を展示してもらうことになった」であります。</p> <p>以上で、「生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査（令和6年度）について」の説明を終わります。</p>
委員長	<p>それでは今の「生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査（令和6年度）について」何かご意見はありますでしょうか。</p>
委員	<p>資料1のNo.13、令和6年度の実績として、捕獲数が非常に増えています。</p> <p>内訳としては、アライグマが89頭から180頭に増えたという説明がありましたが、その結果は、アライグマの罠を増やしたとか、どういうことでこの結果に表れているのかわかれば教えてほしいです。次に、4種類ごとの捕獲の目標値を設定しているのでしょうか。</p>
施策担当	<p>まず1点目、アライグマの捕獲数が前年度に比べて約2倍に増えたことについては、原因は分からないが恐らく母体数が増えたことによって捕獲数が増えたのではと考えています。2点目、それぞれ4種類については鳥獣計画の中で3年ベースの計画を作りますが、その中でそれぞれの種別ごとに、前年度の実績等を考慮して目標を作成しています。</p>
委員	<p>シカの頭数が少なくなると川西の自然環境が改善されると感じているところです。別の項目でシカの防護柵を令和6年度に設置していただいたということ</p>

	<p>で良かったなと思っています。ほかの自治体の話ですが、シカの頭数を削減すると植生が見事に回復することがわかっています。捕獲すること自体大変なことだと思いますが、その分自然環境の改善という成果があるので、ぜひ、シカも入れた有害鳥獣の捕獲を今後もしっかり続けていただきたいと思います。</p>
委員長	<p>シカの捕獲状況、捕獲の仕方というのは、どのようなものでしょうか。</p>
施策担当	<p>基本的には採り罠というシカの足を引っかけて縛り上げて捕獲する罠がメインになっていますが、黒川、国崎地区はシカが多く、罠だけではどうしても追いつかない状況もあって、一部銃を認めている部分もあります。銃を使うということで危険も伴うので、市としてもエリアを拡大できる状況ではありません。一部猟友会以外の場所で市が許可を出して銃の駆除を行っています。</p>
委員長	<p>他には何かあるでしょうか。</p>
委員	<p>資料2のNo.2の今後の方向性です。川西市の体験環境学習で小学校3年生が校区内の体験学習で、4年生は里山体験です。黒川里山センターがあって、一庫公園があって、国崎クリーンセンターという場所があります。4年生は心配しなくていいですが、問題は3年生の体験環境学習です。小学生が主体的に環境教育に取り組むことができる環境体験学習のプログラムを構築するとありますが、3年生の体験学習を担っている森林ボランティア団体、特に北部の団体については、プログラムから現場の指導、前後のメンテナンスもすべて団体が</p>

行っています。実際、学校は何もしてくれていません。問題なのはボランティア団体の構成員の年齢です。ほとんどの方が後期高齢者です。体験学習は山なので体力を使うし、準備もあります。今後川西市の3年生の体験学習を続けていけるのかということです。私の実感で言うと、学校の先生も忙しくてそれどころではありません。体験環境学習はボランティア団体にお任せですという状況です。

あと、3年くらいするとだんだん担い手がいなくなります。学校の先生はまだ意識が薄いので、今、手を打つにはプログラムをマニュアル化して、学校の先生を取り込んでボランティア団体が高齢化しても環境体験ができるという仕組みを作っていないと、いずれなくなってしまう危惧を持っています。4年生、5年生はちゃんとした仕組みがあるのでもっています。3年生の環境体験学習、特に北部地区の8団体が受け持っている環境体験学習について対策をしておいた方がいいと思います。いちじく畑とかは農家がやってくれるので問題はないですが、森などで行う環境学習の将来は問題があるのではないかと考えています。

それと、シカの問題も出ましたが、国崎クリーンセンターで裏山がシカ柵でシカが入らないところと入っているところの植生の違いが明らかなのです。シカ柵は高さが2 mないと意味がありません。ただ2 mのシカ柵を設置するには

<p>施策担当</p>	<p>費用が掛かります。そして点検も必要で、これはコストと手間がかかるが、シカ柵があれば見違えるほど植生が回復します。先ほどシカ柵の問題が出ていたので述べておきます。</p> <p>委員の仰るとおり、ボランティア団体にはいつもお世話になっています。感謝申し上げます。教員も各年でなかなか統一した意識を持ってないという実態があるので、必ず打合せをする際に研修を5年目までに受けることを計画しています。まず当事者意識を持ってもらったうえで打ち合わせに臨むということが必要であると考えています。また、個々の先生によって環境に対する関心の度合いが違いますが、先生個人に頼るのではなく、学校のカリキュラムとして位置づけることによって、同じ内容を行っていくように仕掛けていきたいと思っています。</p> <p>日頃よりいろいろと助けていただいて感謝申し上げるとともに、教育委員会としてはそのあたりを学校に指導していきたいと思っています。</p>
<p>施策担当</p>	<p>黒川里山センターが今年、南北棟の耐震工事が終了して、ようやく新棟と合わせて一体的に活用できるようになってきました。そこで森林ボランティアが一定使用されていると聞いています。その中で、里山センターを有効活用していただいて、指定管理者もこれからそういう企画をしていくと思うので、その中で子どもの環境学習を行っていけたらいいと考えています。</p>



委員	黒川里山センターの里山体験は4年生。3年生の環境体験は校区内の自然環境で実施するという縛りがあるので、黒川に連れていきません。
委員長	実施に際してはどの程度学校と打ち合わせをしているのでしょうか。
委員	私が実施しているところでは、学校は日程の確認だけです。実施内容については我々がプログラムを組んで実施の詳細を決めて、先生に連絡するという流れである。他団体も同じような感じだと思います。
委員長	丸投げの状態なので、それはまずいのではないかと思います。先生がもう少し知っておいてもらわないと。生徒を出したら後はお任せでは困ります。
委員	北摂で里山体験ができる場所が限られています。ということは、限られた場所なのでマニュアル化できます。ボランティア団体だろうが先生だろうがどちらでもできる仕組みを作れば、ボランティア団体が高齢化しても先生で対応できると思います。
委員長	そのあたりは教育委員会も考えていただければいいと思います。
施策担当	補足です。確かに学校間でばらつきがあると思います。一方で事前の打合せと事後の反省会を行っている学校がいくつかあります。年度当初に教育委員会から環境体験についての担当者説明会を行っています。その場を周知することで打ち合わせを密にするということを伝えていきたいです。少し改善に向けて動きたいと思っています。

委員長	モリアオガエルの天然記念物指定について、どの範囲を指定しているのでしょうか。
施策担当	範囲ですが、県立一庫公園の範囲で指定しています。
委員長	一庫公園全体でしょうか。
施策担当	一庫公園全体というか、生息地が2箇所、ビオトープが2箇所あって、そこにモリアオガエルが繁殖しているという状況です。登録の名称としては、「兵庫県立一庫公園モリアオガエル生息地」としています。
委員長	繁殖地だけではなくて生息している森全体を指定しないと守れないと思います。
施策担当	川西市内の他の場所にもモリアオガエルは生息していますが、今回は生息地として一庫公園全体を指定し、その中で生息しているのは2箇所のビオトープということであります。
委員長	わかりました。他にはよろしいでしょうか。
全委員	《意見なし》
委員長	他に意見がないようですので、続きまして、「出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保存のための啓発について」事務局より説明をお願いします。
事務局	それでは、「出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保

存のための啓発について」ご説明いたします。資料3「出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保存のための啓発について」をご覧ください。

前回の委員会にて、委員の皆さんで議論していただき、啓発の文言については、「希少種を今ここで守っているのです」というのではなく、あくまで水路全体の環境、生物多様性の保全を謳うという方向で検討することとなりました。

デザイン等は今後検討が必要ですが、一つの案、イメージとして委員に作成いただきましたデザインを参考としてお配りしています。掲示方法として当初はA3サイズのラミネート加工したものを掲示する予定としております。

掲示場所の案としましては資料3左側の地図と写真をご覧ください。こちらは先日、市と委員で現地を確認したうえで、人通り、特に児童の往来が多く目につきやすい点を考慮して、キセラ川西せせらぎ公園沿いのせせらぎ遊歩道上の転落防止柵や川西北小学校校門前の転落防止柵を選択しています。この内容は委員にも事前に相談させていただいております。

今回の議論で設置場所や掲示方法についてご意見をいただき、それを参考に設置に向けて進めていきたいと考えております。

以上で、「出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保存のための啓発について」の説明を終わります。

委員長	<p>ここで、キセラ川西せせらぎ公園の水路（小川）について、委員より現状と課題を説明いただけるということですので、委員よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>手元に「キセラ川西せせらぎ公園」の資料があります。私自身、キセラ川西せせらぎ水路以前の川西北小前水路に関して30年くらい前から調査や観察会などを学校と共同で進めてきました。キセラの街ができる以前の状況とキセラの街や公園ができた以降の状況をご報告します。1枚目からいきます。ここに挙がっている魚と二枚貝は共生関係にあります。これは本流にはありません。</p> <p>北小前の水路、小戸井堰の写真がありますが、70年、80年前は水泳ができる場所でした。小戸井堰の左の方から水を引いて、今のキセラのところまで伸びてきています。これは70年くらい前の航空写真ですが、中央北地区、能勢口一帯の状況です。田園のある街でした。ゲンジボタル、ヘイケボタルがたくさん飛んでいて、その右下に灌漑用水があります。この水路が田園一帯に広がっていたわけです。そのような中でシジミやゲンジボタル、ヘイケボタルも飛んでいました。それから開発が進みました。次の2枚目を開けてください。川西北小学校で何年かにわたって環境学習をしています。中心は水環境についてです。二枚貝、巻貝、エビの仲間がたくさん発見され、トンボも10種類くらいは見つかります。左下、キセラの街や公園ができる前の調査の写真を載せています。その当時は水路が分枝していました。それをキセラせせらぎ水路に1</p>

本化されて公園ができたわけです。次に右側です。水路、公園ができた当初や少し前は、貝やゲンジボタルの幼虫が川西北小の水路の右手で確認できました。そういう環境が維持されていきました。次の3枚目、平成29年7月にキセラ川西せせらぎ公園ができました。生物多様性も加味した公園や水路を造っていかう、市としても環境保全を踏まえた公園づくりを進めていこうということで公園がオープンしました。

右側に今年の状況ですが、近隣の小学校の子供たちと毎年、調査活動を授業として行っています。貝（カワニナ）は一定数生息しています。ただ、条件付特定外来生物のアメリカザリガニが相当入っています。一部、トンボのヤゴもいるのですが、魚に関して今はドンコやオイカワくらいしか見当たりません。カワヨシノボリなど、ハゼ科の魚も棲めなくなっています。卵を石の裏に産みますが、アメリカザリガニやドンコに食べられてしまいます。ここ数年、ドンコが一部採れますが、カワヨシノボリやカマツカなどの魚が姿を消しています。ギンブナが時々見つかるという状態です。次、右側は今の生息状況です。今から6、7年前の状況は貝を始めヤゴや魚も採れました。時にはサワガニやカゲロウ、カワゲラ、比較的きれいなところにしか棲めない水生生物やトンボのヤゴがいました。今の状況で、象徴的なのはアメリカザリガニです。石をめくるとヒル、ユスリカ、外来生物のサカマキガイなど、水質階級Ⅳ級、富栄養化し

た汚れた水環境の中でも生きていける、そういう生物が中心の水路になってきています。原因等含めて改善できることはないか考えてみました。最後の4枚目です。ここの水路そのものが以前は灌漑用水として利用されていましたが、今は公園を造って、オアシスタウンの道の真中に水栓、スピンドルが設置してあります。これは灌漑用で水量を調整するのに必要ですが、堰となっています。他にも所々に小さな堰があります。以前、キセラ川西せせらぎ公園の市の担当の方やボランティアの方々と一緒に調査をしたり、何とか改善できないかと石を動かしたり、汚泥やごみを取ったり、いろいろなことを一緒にやってきたことがあります。今は残念ながら、アメリカザリガニが大占有しています。堰となっているスピンドル付近は、オオカナダモ、エビモなどの外来水生植物が繁茂しています。水を流す調整や水路内の草刈りなどされていますが、気温が高い夏場になると傷んだり腐ったりして異臭を放つことがあります。街の環境にとってもよくないことではないかと思います。ごみもあります。右上は、今までたくさん生息していたマツカサガイやシジミ類が死んだ殻が下流に埋まっている状況です。これからどのようなことができるかということですが、左下に5項目載せています。市だけとか個人だけではなかなか水路を水質改善は難しいと思います。様々な生き物が生息し、きれいな小川を子どもたちや多くの方々は望んでおられると思います。臭いドブ川になっては大変です。生物多様性を

	<p>保全するために、カゲロウやトビケラ、ホタル、ヤゴやヨシノボリなど小魚が生息できる水路（小川）であってほしいと思いますし、その取り組みが求められます。取り組みの5番目として今回、啓発活動として、掲示板などが必要ではないかと思います。最後に右下の写真、親しまれる景観の一つとして、街づくりの1つとして造られた大きなキセラの公園です。公園の園庭の整備・植生と水路の水質と環境改善が一緒になって初めていい公園になると思います。親しまれる公園づくり、親子が遊べる、自然体験ができる水辺公園であってほしいと思います。水路の水質改善ができればと思い、提案させていただきました。</p>
委員長	<p>委員、ご説明ありがとうございます。それでは、「出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保存のための啓発について」何かご意見等ございませんか。</p>
委員	<p>資料3をご覧ください。赤矢印5か所は、先日廻ってきて場所を決めたのですが、赤枠の部分に設置しようと考えています。キセラ水路の一番南側1箇所と公園内の人通りが多そうな場所に2箇所、ホームセンターとオアシスタウンの間の連絡通路に1か所、川西北小学校校門近くのフェンスへの設置を考えています。場所によって人の動きが違うが、一番人通りが多いのは、公園内の南から2番目、3番目の場所とホームセンターとオアシスタウンの間だと思っています。川西北小校門付近については、主に通る層が小学生で、登下校時に見</p>

	<p>られることが多いと思っています。そう考えると、すべての場所で同じ掲示をするのではなく、小学生向けにフリガナを付ける、絵を付けるなど内容を変えるべきかと思っています。その点について、ご意見をいただきたいです。いかがでしょうか。</p>
委員長	<p>この水路の流れる速度はどのようなものでしょうか。</p>
委員	<p>堰があるあたりはほとんど止水状態、堰を下った浅瀬の部分では、藻などが流れていく程度の水量、流速はあります。</p>
	<p>説明追加です。配布している資料のデザイン案2枚について説明します。これは7月26日の環境フェスタで掲示するものです。これと似たものを場所に合わせて作成しようと考えています。</p>
事務局	<p>水量のことですが、先程委員が仰ったとおり、元々猪名川本川から農業用水として引き込んでいます。水路を引き込んで少ししたところに泥捌けの施設があり、そのコントロールで地区内の水量が変わってくる状況です。流量については泥捌けのコントロールと雨などの状況によって変わってくると思います。ただ、全体を通してみたら一定の流量で、一定の速度があると思います。ただ、先程申し上げたようにスピンドルゲートとか、堰板を設置しているところがあります。これは水量が減少したときに水をためて水生生物を守るという目的もあります。堰の部分では流速が落ちますが、基本的には一定の速度で流</p>



委員	<p>れていると思います。委員の資料で、スピンドルのところで、「上から水が」という話がありますが、確か、水利組合との調整の中、一定間隔で最低限は開けておくことになっているので、下から水が流れている状態です。あふれた部分が上から流れて、公園なりに流れている状況だと認識しています。</p> <p>補足です。スピンドルのところの上から流れる水が一定ある。確かに担当者が時々来られて下を 3 c m、5 c m 開けて調整していることも承知しているのですが、できて 9 年くらい経ち、その間スピンドルに相当汚泥が溜まっています。5 0 m くらいオオカナダモの群落ができるくらい汚泥が溜まっていて、そこになんとか生息できるギンとか鯉科の強い魚はおりますが、それに混じってアメリカザリガニがたくさんいます。それが一つと、公園の近くは、3 年前にある団体と一緒にアメリカザリガニを駆除しようということで、ザリガニ釣り大会を企画しました。その時に 600 匹くらい捕れました。その時の写真がありますが、タライ 3 つが一杯になるくらいになりました。1 匹のアメリカザリガニで 300 から 1000 の卵を産むのです。繁殖力は凄いです。アメリカザリガニが多くなると他の生き物の卵や幼生が食べられてしまうという課題があります。</p> <p>昨年、雲雀丘学園高校生物部でゲンジボタルの幼虫を 400 匹育てて水路に放流しました。今年も 6 月に見に行ったのですが、1 匹も確認できませんでした。</p> <p>400 匹の内、1% くらいは成虫になって飛ぶかなと思ったのですが。そういう努</p>
----	---

	<p>力もいろいろな団体が実施している状況であります。ゲンジボタルの天敵になるアメリカザリガニが課題であると思います。</p>
委員長	<p>堰のところに魚は上流から下っていくのは難しいのでしょうか。</p>
委員	<p>小さな堰は必要があって造られています。下を開けた時に多少流れるかもしれないし、上からの水を泳いで超えるかもしれません。数は少ないが、オイカワやゲンブナはいい環境であれば定着するのですが、天敵のアメリカザリガニが多いからなかなかそういう環境に卵が産めません。そういったことでハゼ科の仲間も見当たらない状況です。</p>
委員	<p>水流を速くすればいいのですか。</p>
委員	<p>水路が造られた当初に当時の専門家とか市職員から、流量に比べて水路の幅が広いのではという意見が出ました。そういう理由で石を置いて、砂礫を置いて、蛇行性のものを置いたら流速も高まっていくだろうということでした。流量を増やして、流速を上げようとしたらスピンドルを工夫しないといけません。</p>
委員	<p>水路に関して問題だと思うのが、公園内で水路が2本に分かれている部分です。総合体育館の横あたりで本流と、子どもが下りやすくしている部分があります。以前はそこに水が流れていたが、植物の遷移が進んで、水が流れなくなっています。</p> <p>植物の遷移は自然に進むものです。人工の水路だと尚更人が管理してあげな</p>

<p>施策担当</p>	<p>いといけません。水路が埋まってくれば定期的に掘って水が通るようにする          いうように、子供の遊び場、ふれあいの場を維持できないかと思っています。</p> <p>市もそのあたりを課題だと思っていて、キセラのせせらぎ公園でメンテナン          スイベントとしまして年2回市民と一緒に清掃をしています。先週水路をメイ          ンに行いました。その中で委員が仰ったアメリカザリガニの駆除や溜まったヘ          ドロを挙げる作業をしました。イベントとして実施しているのでまだまだきれ          いにはできていない状況ですが、順次改善していきたいと考えております。</p>
<p>事務局</p>	<p>先程の水路が二股に分かれているという話の補足をします。設計当初、「ホタ          ル護岸」で、深さが異なっております。ホタル護岸の部分だけ親水性を高めて          いるのですが、もう一つ、流速を遅くして自然環境を整えて、将来そこでホタ          ルが飛べばいいかなという話です。一定の土砂の堆積は狙いどおりなのかなと          思いながら、一方で堆積の問題は併せて今起こっている状況なのかと思います。</p> <p>アメリカザリガニの問題については、あそこを市民の皆さんと一緒に成長させ          ていこうというなかで、市民と一緒にアメリカザリガニを捕まえていこうとい          う話を言っています。</p> <p>本題のポスター掲示からは離れる話になるのですが、団体の方から聞いた話          です。アメリカザリガニがたくさん採れますが、処分に困るというなかで、湯          がいて、それを乾燥させて畑にまくと、びっくりするくらい立派な大根ができ</p>

	<p>て、公園活動の皆で食べたという話をされていました。特定外来生物の駆除が一つの循環型社会の形成につながるのかなと思います。着実にひとつずつ公園緑地課で取り組みをしていってくれているのかなと思っているところであります。</p>
委員長	<p>ポスター掲示の件ですが、これに対して何かございませんか。</p>
委員	<p>この水路啓発ポスターは流域ネット猪名川で作成して、環境フェスタで展示しようと思っているのですが、内容として、写真は身近な自然とまちを考える会に協力いただきました。自然が豊かだったころの昔の写真です。今は都市化が進んだ中で失われつつあるものが水路に残っているということと、現在でも多様性のある生態系が残されているということ、そして後半は生物多様性の必要性和外来生物の侵入について記載しています。先ほども申し上げましたが、掲示場所によって載せる必要の有無があるのではないかと思います。通り過ぎる一瞬のために詳細な内容を載せても読んでもらえないのではないかと思います。人がじっくり立ち止まってくれそうな場所には詳しい内容を書いてもいいのではないかと思います。人が通り過ぎる場所や子供向けの場所はそこに対応した形で掲示したいと思っています。ここでご意見を伺いたいのですがどうでしょうか。</p>
委員	<p>ポスターの内容は重要なことが書かれていると思いました。せっかく掲示す</p>

委員	<p>るので、なるべく多くの人に関心を持ってもらって理解が進むような形で進められればと思うのですが、この場所が小学生の環境学習にも利用されているということなので、小学校3年生くらいでも理解でき、環境学習時にこのポスターで説明ができるようになればよりいいのではと思いました。このポスターのポイントは、ここにある貴重な生き物がアメリカザリガニ等の外来生物に食べられてしまっているというところだと思うのです。そのあたりを端的にわかるといいかなと思います。アメリカザリガニとかブルーギルが問題であるということ書かれているが、小学生のレベルでどう問題なのか一目でわかるような形で訴えることができればポスターとしては申し分ないのかなと思いました。</p> <p>大変参考になるご意見ありがとうございます。掲示する根本的な理由としては貝や魚などの希少種を保全するという最終目標があって、希少種名を直接出すのは乱獲の危険があるためよろしくないということでそれを避けた形で、生物多様性をアピールする内容になったわけです。市民、地域全体の意識を高めてもらうという効果を狙って掲示すると思っています。アピールの目的は、市と団体に保全事業をしているということ、この水路に対して保全意識がしっかりある皆の目が向けられているということをアピールしていくことで、普段気にかけていない人も水路に目を向けてくれるようになるのではないかと考えています。</p>
----	--

委員長	<p>「外来種が繁殖しています」というよりはむしろ「外来種が在来種を食べています」とした方が目立つのではないかと思います。</p> <p>他に何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>貴重なご意見ありがとうございます。アメリカザリガニの駆除という形をとって維持管理をしていただいています、ポスター掲示したときに、例えば子どもが川に入って、捕まえて放り出してほしいというようなお願いだったら、在来種が外来種に食べられてしまうというようなイラストなどでアピールするのも一つの手段かなと思います。一方で保全という部分で考えたときに、ヘドロとかの問題、空き缶やレジ袋を捨てたりして川の環境がどんどん悪化していくのを防ぐというところが日頃できる保全の部分なのかなと思います。この川はたくさん生物がいて重要であるなどのアピールとか、今回、委員が出していただいた、子供たちが川に入って学習している様子などをアピールするのも一つかなと思っています。委員が中心となって考えていただいています、一つキャッチフレーズとか、せせらぎ水路に深くかかわっていらっしゃる委員にご相談しながら作成して、スタートはラミネートで作成しますが、どんどんブラッシュアップできるかなと思いますので、一旦そのような形で進めていってよろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>本日の意見を参考にして、考えていただきたいと思います。</p>

委員	<p>普段人が多いからアメリカザリガニの天敵になるサギ、シラサギが来ないのですね。自然界なら結構来ます。オアシスタウンの上流の水路には結構サギが来てアメリカザリガニを食べていることがあります。もう一つは街づくりのためにもオアシスタウンの両サイドのあたりのスピンドルは止水状態ですが、例えば年に1回でもいいから浚渫する、オオカナダモなどを取り除くことができれば水質も変わるし、下流域の水質も変わってくる可能性があるのではないかと思います。予算もかかるので大変ですが。最後に、ホタル護岸ですが、2層にしても横がつながるように造ってあります。片方浅めにしてあって、そこにホタルのサナギが入れるように護岸を造ってあります。水域を調整するのに太い水路と植生が広がっている水路の両方を水管でつないで、水位が下がりすぎないように調節できるように仕組上なっています。気になるところなので追加でお話ししました。</p>
委員長	<p>他はよろしいでしょうか</p>
全委員	<p>《意見なし》</p>
委員長	<p>他に意見がないようですので、それでは、「次第4．その他」に進みます。</p> <p>まず初めに「自然活動団体用パンフレットスタンドの設置について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、「自然活動団体用パンフレットスタンド設置について」ご説明いた</p>

	<p>します。資料４「自然活動団体用パンフレットスタンド設置概要」をご覧ください。</p> <p>自然活動団体とお話しをする中で、各団体ともなかなか情報発信が難しいという話を聞いたことをきっかけに、自然活動団体と相談し、自然活動団体の活動を自由にＰＲする場として市役所１階とアステ川西４階の川西市立中央図書館前にパンフレットスタンドを設置しました。</p> <p>この２箇所はどちらも人通りが多く市民の目につきやすい場所であります。</p> <p>現在１１団体が団体の入会案内、行事案内などの配架として利用しており、残りの団体も配架に向けてチラシ作成などを行っていると聞いております。</p> <p>以上で、「自然活動団体用パンフレットスタンド設置について」の説明を終わります。</p>
委員長	今の説明について何か質問等ございませんか。
全委員	《意見なし》
委員長	意見がないようですので、「本県におけるクビアカツヤカミキリ確認状況について」事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>それでは、「本県におけるクビアカツヤカミキリ確認状況について」ご説明いたします。資料５「本県におけるクビアカツヤカミキリ確認状況」をご覧ください。事前に送付しました資料から一部変更がございます。お手元の資料は本</p>



	<p>年6月現在から7月15日現在の確認状況に時点修正したものになります。</p> <p>前回の委員会で委員から「地図上でこの地域に外来種が入りましたというような表示はできないか」という意見がありましたが、今回、兵庫県から本年7月15日現在のクビアカツヤカミキリの確認状況を表した地図の提供がありました。本市においては、クビアカツヤカミキリを発見した場合の通報手段として、県が作成している「目撃情報通報フォーム」などを市ホームページで紹介しておりますが、そのページに今回の資料を追加しております。今後も県などからの情報を速やかに市内部で共有するとともに、ホームページ、メールなどを活用し、市民、自然活動団体等に情報発信していきます。</p> <p>以上で、「本県におけるクビアカツヤカミキリ確認状況について」の説明を終わります。</p>
委員長	<p>今の説明について何かご意見等ございませんか。</p>
委員	<p>丹波篠山市も最近見つかり、年々分布が拡大しており、川西市が侵入されていなくてすごいなという感じです。この様子だとすでに川西市にも入っているのではないかと思います。厳重警戒していくのと対策を考えていく必要があると思います。</p>
委員	<p>箕面市でもすでに発見されているという情報を入手しておりますので参考までに報告しておきます。</p>

事務局	大阪府では箕面市、豊中市、茨木市でも発見されています。川西市の猪名川を挟んで東側でも発見されている状況でございます。
事務局	情報共有です。兵庫県阪神北県民局が主導して、各市町で情報共有して、川西市でもパトロールをするという話が出ております。もし発見された際には殺処分や伐採など状況に応じたしかるべき対応になりますが、パトロールをするという動きがあることをお伝えしておきます。
委員長	<p>大勢の目で見ないと発見は難しいと思います。公園に「クビアカツヤカミキリを見つけたら連絡してください」という看板を貼付したら効果があるかもしれません。</p> <p>他はよろしいでしょうか。</p>
全委員	《意見なし》
委員長	他に意見がないようですので、つづきまして、「市南部物流センター建設における伊丹市環境アセスメントについて」事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>それでは、「市南部物流センター建設における伊丹市環境アセスメントについて」ご説明いたします。資料６－１「市南部物流センター建設における伊丹市環境アセスメントについて（１）」と資料６－２「市南部物流センター建設における伊丹市環境アセスメントについて（２）」をご用意ください。資料６－２は前回委員会でもお配りしました本計画の概要でございます。参考資料としてお</p>

配りしております。では、資料６－１「市南部物流センター建設における伊丹市環境アセスメントについて（１）」をご覧ください。

当該物流センター建設計画では、伊丹市環境影響評価に関する要綱に基づき事業者が環境影響評価準備書を作成し、本年５月１５日から６月１４日まで縦覧しておりました。その中の動植物調査について報告します。

資料６－１は事業者が作成しました環境影響評価準備書を一部抜粋したものでございます。１枚目、ページが１３３ページとなっていますが（１）現況調査内容、２枚目、ページが１３４ページでは（２）調査結果で動植物の種類ごとの調査結果が記載されています。調査の結果、昆虫類で重要種のミヤマアカネ及びシルビアシジミの２種が確認されています。

次に３枚目、ページが１３５ページでは（１）土地の形質変更及び緑の回復育成をご覧ください。中段の（イ）予測結果では次のとおりとなっております。「ミヤマアカネの生息地である水辺環境については、本計画において改変はない。シルビアシジミの生息地である緑地については、本計画において一時的に消失するが、新たな緑地には現況と同様にシルビアシジミが好む草本類を植栽する計画である」とのことでございます。また、「シルビアシジミは周辺の公園でも確認されていることから、周辺に生息地が確保されていると考えられる」とのことです。

	<p>次に（ウ）環境保全措置ですが、「予測の結果、土地の形質等の変更及び緑の回復育成に伴う動植物への影響は生じるおそれがある」とのことです。事業者は実行可能な範囲で環境影響を回避又は低減することを目的に、表 3-11-3 のとおり環境保全措置を実施するとのこと。具体的には、「植栽においては、外来種の選定は控え、可能な限り周辺樹種と調和が図られる樹種や現況の植栽の樹種を選定する」とのことです。次に（エ）環境保全目標ですが、4 枚目、ページが 1 3 6 ページでは、表 3-11-4 のとおりとのこと。具体的には、「絶滅に瀕している種のリストに指定されている貴重な動植物の生息、生育や繁殖、繁殖に配慮していること」、「環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全に配慮し、動植物に及ぼす影響が可能な限り低減されていること」とのことです。</p> <p>次に（オ）評価の b）環境への影響についてですが、「本事業による土地の形質等の変更及び緑の回復育成に伴う動植物の著しい影響はないと考えられる」とのことです。</p> <p>以上で、「市南部物流センター建設における伊丹市環境アセスメントについて」の説明を終わります。</p>
委員長	今の説明について何かご意見等ございませんか。
委員長	環境アセスメントの範囲は川西市側ではないのですか。
事務局	建設計画が伊丹、川西両市にまたがっております。環境アセスメントは市境

	<p>で分けるということではなく、建物全体に対して実施しております。</p>
委員長	<p>シルビアシジミが生息しているのは川西市側ですか。</p>
事務局	<p>正確には記憶しておりませんが川西市側だと思います。</p>
事務局	<p>そこは調べられていません。敷地内にシルビアシジミが生息しているという話です。シルビアシジミの生息地は開発で一旦消滅してしまいましたが、周辺の公園等にも生息しているとのことですので、開発終了後にシルビアシジミが好む草木等を植栽することによって、周辺の公園から戻ってくるだろうとのことです。</p>
委員長	<p>そのようにうまくいくかなという気がしますが。</p>
委員	<p>シルビアシジミのところが大変気になりました。ある先生が伊丹でシルビアシジミの調査をされています。シルビアシジミがどういう植生の場所に生息しているかというのを論文でまとめられています。もし、ご覧になられていないのならお渡しします。ぜひ参考にしていただきたい。シルビアシジミが好む草本類というのがどういうものを復元されるかわかりませんが、本来ミヤコグサしか食草にしていないのですが、伊丹のシルビアシジミはシロツメクサを食べているということです。「これは外来種なのがいいのか」ということが伊丹市の審議会で結構話題になっているみたいで、いろいろ論争があるみたいです。シルビアシジミが好む環境をまとめた資料がありますので、ぜひ参考にしていた</p>

事務局	<p>だきたい。</p> <p>ぜひ共有していただけたら助かります。参考までに、伊丹市の環境審議会委員の中に以前当委員会の委員をされていた先生が委員になられています。研究が進んで論文が出てきていると興味を持っているところです。伊丹市の環境アセスメントですので本市がどうこう言うことではないのですが、川西市側も巻き込んでしてくださいとお願いしている中で情報共有していただいています。</p> <p>お聞きした内容では、調査時期が適切な時期に実施すべきではないかということで、もう1回調査するという事実を確認しており、結構丁寧に調査をされているという認識でございます。</p>
委員	<p>一旦生息場所が消滅して、そのあと食草を植栽すると言われていますが、私たちは猪名川で外来種の駆除や植生の管理をしている中でよくあるのが、一旦失われた場所にもう一回植栽しても大概是外来植物が出てきます。工事箇所なら工事車両についた種や新しく搬入した土砂に種や根が含まれていて、外来種が出てくる可能性が高いです。植栽して終わりでは、恐らく外来種が入ってくるのではないかと不安があるので、その後の維持管理についてもしっかりと観察して、外来種が入っているようなら、対策をできるようにしていく必要があると思います。</p>
委員長	<p>ここのシルビアシジミはシロツメクサを食草としているのですね。他地域は</p>

事務局	<p>ミヤコグサですが。草刈り等を丁寧に行わないといけませんが、シロツメクサなら割と環境を復元しやすいです。</p> <p>伊丹市の環境審議会でも議論になっていると聞いているので、伊丹市と情報共有しながら状況把握をしていきます。</p>
委員長	<p>他はよろしいでしょうか。</p>
全委員	<p>《意見なし》</p>
委員長	<p>他の件で何かありますでしょうか。</p>
施策担当	<p>黒川里山センターについての情報共有をさせていただきます。お手元のカラーリーフレットをご覧ください。上段に黒川里山センター南北棟、下段に新棟の写真を掲載しております。令和6年4月に新棟がオープンしております。旧黒川小学校については、黒川里山センターの南北棟として令和6年度中に耐震改修工事を実施していましたが、工事が完了し、令和7年4月から新棟と南北棟を一体的に運用開始しております。現在の活用状況ですが、黒川の里山や周辺の豊かな自然環境の中という位置にあることもあり、リーフレット裏側記載の土日開催「里山アトリエ」「森の図書室どんぐり」という事業について、多くの家族連れを中心にご来場いただき賑わっているとセンターから報告を受けております。引き続き、黒川の里山や自然環境の学習の場、交流の場として積極的に利活用していただけるように指定管理者と協議しながら進めていきたいと</p>

<p>委員長</p> <p>委員</p> <p>施策担当</p> <p>委員長</p>	<p>思っております。</p> <p>今の説明について何かご意見等ございませんか。</p> <p>我々は黒川地区でボランティアしていますが、専門的な仲間に黒川里山センターを案内する時は物足りないというイメージを持っております。内容が子供向けばかりであって、専門的な知識が一つもありません。黒川が日本一の里山と言われる理由は、歴史性、景観性、文化性、生物多様性、原生林と里山林の共生という5つのキーワードですが、リーフレットには何も書いていません。専門的なことが欠けていると私は思っています。運営する上で専門書もありません。以前は先生が専門書を寄贈するとかいう話もありました。指定管理の方向性の問題もあると思いますが、例えば地元ボランティアと協働して進めていくなどできないのかと、私は黒川2箇所で開催していて非常に不満を持っております。リーフレットにも高校生で情報発信と書いてありますが、そういうような専門的な方をご案内できるようなスペースを設けたりする方向性を考えてほしいというのが私の意見です。</p> <p>貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。ご指摘も踏まえまして指定管理者と共同で計画を創っていきます。</p> <p>運営協議会はあるのでしょうか。そういう仕組みがあった方が利用者の意見を吸い上げやすいのではないのでしょうか。</p>
---	---



施策担当	<p>利用者団体を集めて議論する場は設けていませんが、モニタリングといって、館の運営状況を外部の方に見ていただいて、適正に運営されているかどうかは見えています。これから運営が始まる場所なので、どういう団体がおられるかはこれから見えてきます。利用者が増えてくれば、指定管理者が利用者の意見を吸い上げて、いかに有効活用するかという観点で進めていけるのではないかと考えています。</p>
事務局	<p>指定管理者と市担当者が毎月1回協議はしているので、本日の会議内容、ご意見などを承って、どのようなことができるのかあらためて検討させていただきます。南北棟と新棟をまとめて運営できるようになったのが今年4月からということで、徐々にきちんとした形で運営できればと考えています。</p>
委員長	<p>よろしくお願いします。</p>
委員	<p>資料に記載がある図書室について、本棚オーナーになれば自分の好きな本を貸し出せるとありますが、どういう仕組みなのでしょう。本を寄贈するということでしょうか。</p>
施策担当	<p>寄贈ではなく、里山の書籍をオーナーに置いていただいて、利用者が自由に見ていただき交流していただくという形で進めております。</p>
委員	<p>それは里山に関する書籍をここで取り扱ってもらえるということですか。</p>
施策担当	<p>お子様からシニアの方、貸室利用の方まで色々な方が来られるので、里山そ</p>

委員	<p>の他の色々な分野の本について当方で選別しているということです。</p> <p>森の図書室で現在どのような書籍があるか存じ上げないが、委員のご指摘もあったように、ここの里山はただの里山ではなくて、日本一の里山なわけです。それを裏付ける文献はたくさんあると思います。そういった書籍をここで扱っていただいて、なぜここが日本一の里山なのか、ここに来たらわかるような形で資料を整備していただきたいです。</p>
委員	<p>同感です。ここに来たら誰でも、日本一の里山とはこういうところだと思えるような場所になってほしいのです。当初我々は黒川里山センターに期待していたわけです。ところが、今は子供の遊び場みたいになっています。今日も朝から見てきたが、そういう風にしか見えないような状況です。専門的にされている人があそこに行って勉強できる、あそこに行ったら案内しましょうかというような施設であってほしいです。かつては能勢電鉄の黒川駅があって、そこに展示物を少量置いていたのですが、そういう場所がなくなって、今は黒川里山センターしかなくなってしまって、センターのあるべき姿、位置づけに注目していたわけです。センターを何とか育ててほしいというのが私の要望です。</p>
委員長	<p>里山を感じられるような施設にしていただけるといいですね。</p>
事務局	<p>黒川里山センターについては文化・観光・スポーツ課が担当しています。それは黒川地域の方々の避難所でもあります。今まで紆余曲折があって建設まで</p>

	<p>に至らなかったという状況がありました。それが新棟は令和 6 年に完成しております。非常に時間がかかっております。環境的な取り組みが欠けているというのは事実だと思っております。そこは今後、市としてどうしていくのか考えていかなくてはならないと思っています。</p>
委員	<p>図書スペースは、黒川の里山に関する専門書籍を置くことは問題ないのですか。思い当たる書籍があります。</p>
事務局	<p>指定管理者と話をしないとダメですね。どういう書籍をどれくらい置けるかというところを協議していく必要はあります。一度先生の専門書を拝見したことがあるのですが、非常に専門的で、一般的に読むのが難しいものが多いなという印象がありましたので、この場で活用するのは難しいと感じたところがあります。</p>
委員長	<p>他はよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>その他のまったく別の話です。先ほど委員長からモリアオガエルのご質問がありました。訂正させてください。今回の市の登録としては、ビオトープが 2 箇所あるのですが、そこを中心とした片方 8 0 0 m<sup>2</sup>、もう片方が 1 0 0 0 m<sup>2</sup>、ここがちょうど産卵地になっている場所で、そこが登録地になっています。文化財審議会でそこを登録するという話に至るにあたって、一庫公園管理事務所や市民がしっかりとそこを守ってきて、産卵地になって指定登録地になってい</p>

	<p>るわけです。ただ、生息地という意味では公園内色々なところにあるので、今後の展開次第ではそれらも登録しようという話が文化財審議会に出ているという状況であります。</p>
委員長	<p>広い範囲を指定した方がモリアオガエルを保全するという意味では有効かと思います。</p>
委員	<p>本年3月31日に市の登録文化遺産として天然記念物の指定を受けました。生息地はセンターの裏、もう一つは少し離れたところ、併せて1800㎡、公園の中で池とその周辺一帯を指定しています。7年度も2箇所併せて15, 16の卵塊ができて、今オタマジャクシ、幼体になってはねている状況です。このまま継続的に管理して、来園者に見てもらえるようにしていきたいと思っています。</p>
委員	<p>私が活動している清和台に5個くらい卵塊があります。国崎のゆめほたるに8個あります。モリアオガエルの天然記念物指定はどのような効果があるのですか。実はゆめほたるのモリアオガエルの卵が盗られました。どうして盗られたかという、ゆめほたるのホームページに「モリアオガエルが卵塊を作りました」と出たからです。当該地は人があまり来ないところです。盗ることに罰則はないですね。天然記念物指定でどういう拘束力、強制力があるのでしょうか。</p>

事務局	<p>天然記念物指定をすることによって、単にその場を指定するというのではなくて、そこにしっかり管理する方々がいるということで、そこを象徴的に指定して、川西市に貴重な生物がいるということを知っていただく、引き続き管理していただいて、永続的に続いていくという形になるということかなと思います。あくまでも今回の指定箇所を期初として次々と広がっていけばいいなというところです。当然、生物多様性を守ることならば、勝手に盗ることは許されないことです。罰則はありませんが、啓発していく意義はあると認識しています。</p>
委員	<p>あちらこちらを指定したということは告知できるのでしょうか。それほどたくさんあるわけではないですね。</p>
事務局	<p>管理されている方に指定してほしいということで申請してもらって、しっかり管理されていて、今後も安定した生物多様性の保全がなされるだろうと判断ができれば、指定は検討されていくものと認識しています。</p>
事務局	<p>卵塊が盗られたというのはキセラの水路と同じ構図なのかなと思います。一旦皆さんに周知し、皆で護っていこうという概念と、悪意を持っている方、希少生物がいるから盗って売ろうと近い話で、どこに視点を置いて考えるかという部分が難しいのかなと思います。一庫公園は管理体制がしっかりしているということに加えて、日頃から公園という形で多くの人が集まってくる中で発信</p>

	<p>がしやすいということで、今回申し出をいただいて登録できたのかなと考えています。今後、ゆめほたるとかも、ひとつは情報発信をしていったりとか、皆で護っていくという機運を高めていったりとかする部分では、有効なツールなのかなと思います。国指定、県指定、市指定などいろいろありますが、国の登録重要文化財になれば、当然、規制は厳しくなるけど、補助がたくさん出ると思うのですが、今回は市登録ですので、あまり支援があるというわけではないです。ただ、公式に市登録文化財であると発信していく認識でいいのかなと思います。</p>
事務局	<p>もう一点、先般、黒川の台場クヌギがクワガタの採集者に荒らされたということがありました。一報を受けて担当の生涯学習課が現地を見に行っています。文化財登録した後でも状況を把握して報告していくという形では考えています。</p>
委員	<p>私が情報提供したのですが、黒川の代名詞である黒川の台場クヌギにクワガタがいます。私自身もオオクワガタを買っていますが、PRすることによって、傷つけられてしまいます。枯れかけていた樹木ではあるのですが、冬場に掘られてしまいます。かつては猪名川町の槻並あたりでやられていて、ここ10数年はなかったのですが、最近そういう傾向が出てきています。天然記念物指定された場所での動植物の採取が最近今年2月にも見受けられました。</p>

委員長	他にはございませんか。
全委員	《意見なし》
委員長	他に無いようですので、「次第４．その他」について終わります。
	それではここで司会を事務局にお返しします。
事務局	委員長ありがとうございました。
	それでは、続きまして、「次第５．市民環境部長 あいさつ」です。閉会にあたりまして、事務局代表よりより一言ご挨拶申し上げます。
事務局	長時間にわたりまして熱心に議論していただきましてありがとうございます。本日の議論でいただいた宿題については、どれくらい解決していけるのか今後検討していきたいと思います。本日の会議で思いましたのは、川西市というのは南北に細長くて、北の端の国崎クリーンセンターから伊丹市市境まで議論できたということで、川西市は生物多様性もありますし、環境の状況が非常に違う多様性がある市であるとあらためて認識したところです。今後とも引き続き様々な議論をしていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。
	本日はありがとうございました。
事務局	今後のスケジュールですが、次回部会は令和８年１月頃に開催予定であります。委員の皆様、よろしくお願いいたします。
	以上を持ちまして、令和７年度第１回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員

会を閉会いたします。

本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございました。お忘れ物の無いように、気を付けてお帰り下さい。なお、受付の際、駐車券をお渡し頂いた方は、お返ししますのでしばらくお席でお待ちください。